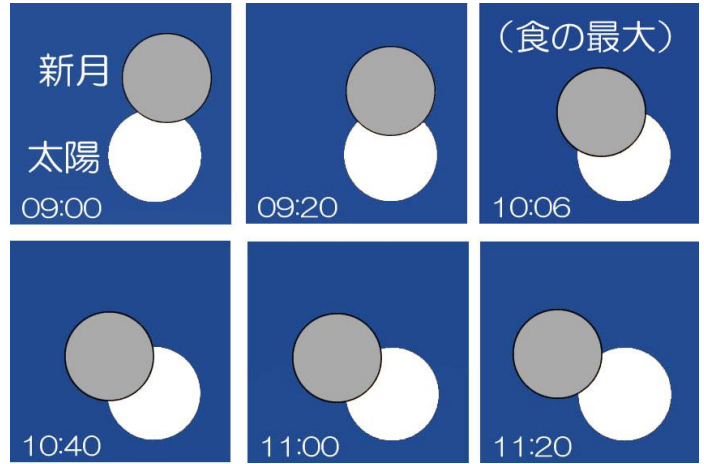
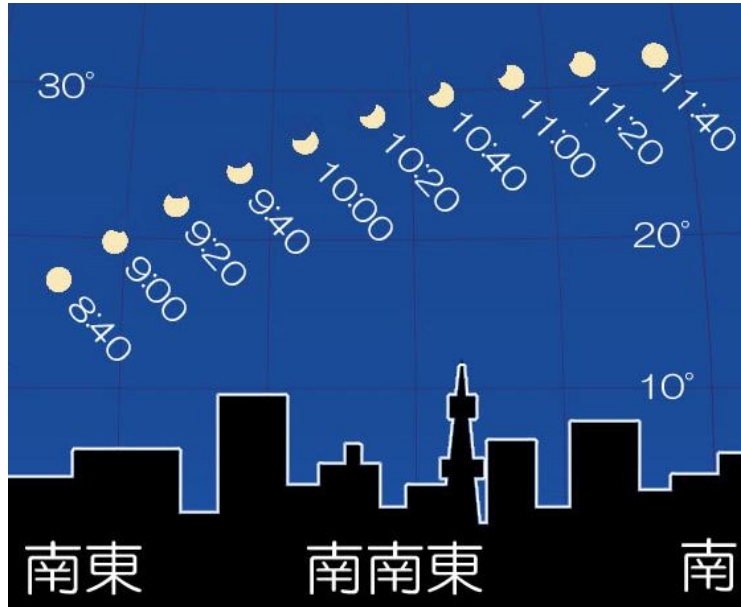




2019年1月6日（日）午前中の「部分日食」の観察ガイド



「日食」は、地球・月（新月）・太陽が一直線に並んだ時だけに起きる、めずらしい「天文現象」です。完全に一直線に並ぶと、「皆既日食（かいきにつしよく）」や「金環食（きんかんしよく）」になりますが、1月6日の日食では、月と太陽がほんの少しずれているので、日本全国で「部分日食」が見られます。この日は日曜日で、東京でも晴ればよく見えますので、不思議な形の「お〜日食」や「あ〜日食」をぜひ観察してみましょう。



日食は午前中の8時40分ごろ始まります。月のほうが少し動きがおそいので、太陽が月を追いこしていきます。10時6分ごろ一番大きく欠け、その後少しずつもとの形にもどり、11時40分ごろ終わります。

日食を安全に観察するために

太陽の表面を光球（こうきゅう）といいます。光球は非常に強い光なので、直接目で見ると、たとえ1秒でも目に悪い影響（えいきょう）が残ります。太陽や日食を観察するには、専用の「太陽・日食観察グラス」（しゃ光板）が必要です。「太陽・日食観察グラス」（しゃ光板）は、インターネットでも買えます。

- ・「黒い下じき」「色のついたガラス」「濃い色のセロファン」などで代用するのは非常に危険ですので、絶対にはいけません。
- ・「太陽・日食観察グラス」は、目での観察専用です。双眼鏡や望遠鏡と組み合わせて使うのは、大変危険です。
- ・「太陽・日食観察グラス」を使っても、目がつかれることがあります。一回に見るのは30秒ぐらいにして、その後1分ぐらい休み、ほかの人と交代しながら観察を続けましょう。

ピンホール（小さな穴）を使った日食観察

もう一つ、安全で面白い日食の観察方法があります。画用紙や厚紙に、小さな丸い穴（1mm ぐらい）をたくさんあけて、そこに日食の時に太陽の光を当ててみましょう。不思議なことに、影の中に日食の太陽の形が現れます。小さな丸い穴をあけるのがむずかしい時は、何枚かくっつけた「切手の穴（目打ち）」を利用するのも一つの方法です。

左の写真は、2012年の日食の時に撮った、「ハートマーク」のピンホール実験の写真です。うまくいったら、写真を撮っておいってください。

